

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	国語	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	国語表現	単位数	2
教科書	国語表現 改訂版（大修館・国表307）		
準教科書			

学習の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。 ・自分の意志を伝える技術を高めるとともに、思考力や想像力を鍛える。 					
学習の進め方		<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを中心に、基礎的な国語表現力を学び、さらに高度な表現方法にも挑戦する。 ・こまめに学習定着確認のための小テストを行う。 ・プリントはきちんと整理させ、提出させる。 					
学習の留意点		<ul style="list-style-type: none"> ・配布したプリントをファイルにきちんと整理させる。また、期限を守って提出する。 ・小テストには真剣に取り組む。 ・設問に対して、真面目に考え、自分の考えをしっかりと表現する。 					
評価の方法		・出席状況、小テスト、提出物など総合的に判断する。					
評価の観点	関心・意欲・態度	自分の意思を伝達する能力を高め、言語文化に対する理解を深めようとしているか。					
	思考・判断・表現	状況に応じた表現方法を選択できるように、適切な判断力を鍛えようとしているか。					
	技能	多様な表現方法を自分のものとしようとしているか。					
	知識・理解	より多くの、語彙、修辞方法、漢字などを身に付けようとしているか。					
授業の内容	学期	月別	時間	単元	学習内容	学習の観点	資質能力
	1 学期	4	6	会話・議論・発表 ・相手や場面に応じた会話	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語表現について学ぶ。 ・ことわざ、語句、文法について学ぶ。 ・メディアリテラシーを学ぶ。 ・引用ルール等を学ぶ。 ・情報収集の方法について学ぶ。 ・相手に伝わりやすい文を知る。 ・句読点の効用を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時と場合に応じた敬語表現が理解しようとしたか。 ・ことわざ、慣用句について理解しようとしたか。 ・メディアリテラシーを理解しようとしたか。 ・情報収集の方法について学び、活用しようとしたか。 ・相手に応じて伝わりやすい表現をしていたか。 	主体 他 コミ 思考 判断 対応 基礎 専門
		5	6				
		6	8	メディアを駆使する ・ネット社会との付き合い方 ・ネットを活用した情報収集			
		7	9	分かりやすい文 ・句読点 ・あいまいな文 ・長文を短く			
	2 学期	9	6	志望の動機を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・志望の動機を書いてみる。 ・効果的な自己PR方法を模索し実際に表現してみる。 ・面接の際の注意事項を学ぶ。 ・高校生活を今まで学んだ表現方法を駆使してまとめてみる。 ・学んだことの確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な表現とアピール力のある文章が書けたか。 ・表現方法に工夫が見られたか。 ・積極性が見られたか。 ・注意事項について理解できたか。 ・回想文に今まで学習してきた表現方法や修辞技法を駆使できたか。 	主体 他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎
		10	8	自己PR ・表現方法について			
		11	6	面接について 面接の注意事項など			
		12	8	伝える・伝え合う ・4年間を振り返って			
		1	5	表現全般についてのまとめ			
	計	62					

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	公民	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	政治・経済	単位数	2
教科書	最新政治・経済（実教・政経703）		
準教科書	なし		

育成を目指す 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	政治・経済に関わる基本的事項を理解し、その知識を身に付けている。学習内容に関わる諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択するとともに効果的に活用し、現代日本の政治的・経済的事象を考察することができる。	現代日本の政治と経済にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現することができる。	現代日本の政治と経済にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようと学習に取り組むことができる。

学習の進め方	①教科書の内容を中心に、歴史的事象を様々な視点から説明し、生徒の理解を深める。 ②映像などの資料を示すことにより、歴史的事象を理解しやすいように学習を進める。 ③ノート・授業プリントなどを用いて学習状況の確認を行う。 ④他の科目など（公共、地理総合、政治経済）と関連させながら、学習を進める。
--------	---

学習の留意点	①毎時間の出席を基本とする。授業に使用する物（教科書・ノートなど）は、忘れず準備すること。 ②板書事項はノートに書き留め整理しておくこと。また、授業中に提示された課題は毎時間ごとに取り組むこと。いずれも指定された期限内に提出すること。 ③授業における疑問・質問は放置せずその都度解消するように努め、意見・感想を発言するなど、積極的な姿勢で授業に参加すること。 ④日頃から、社会の出来事やニュースと学習事項との関連性を意識しておくこと。
--------	--

評価の方法	出席状況・授業態度・ノートや授業プリントなど提出物の取組み状況・授業時間内に行う単元テストを基に、「評価の観点（3項目）」に照らした評価を元に、総合評価を行う。
-------	--

授業 の 内 容	学 期	月 別	時 間	単 元	評 価 基 準			資 質 能 力
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
授業 の 内 容	1 学 期	4	4	第1編 現代日本の政治	現代日本の政治的・経済的事象に関する知識を身に付け、現在の社会が成立し発展してきた過程を理解することができる。必要な諸資料を収集し、それを的確に用い社会的な事象を考察することができる技能を身に付けている。	現代日本の政治的・経済的事象から課題を見だし、日本を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、課題を解決するために必要な視点を適切に表現することができる力を養っている。	政治・経済を学ぶ意義に気付き、現代日本の政治的・経済的な課題を歴史的な展開を視野に入れ意欲的に調べ考え、関心を持って学習に取り組む主体としての自覚を深めている。	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎 専門
				1. 民主政治のしくみと課題				
				2. 世界のおもな政治制度				
				3. 日本国憲法の成立				
				4. 日本国憲法の基本原理				
				5. 国民の権利				
				6. 公共の福祉				
				7. 平和主義と自衛隊				
				8. 日米安保体制				
				9. 21世紀の平和主義				
				10. 政治機構と国会				
				11. 内閣と行政機能				
				12. 公正な裁判の保障				
				13. 地方自治と住民福祉				
14. 政党政治と選挙制度								
2 学 期	10	8	第2編 現代日本の経済	第1編と第2編の学習で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や政治・経済の展開の中で発生する諸事象を理解するための基本的視点を活用するとともに、第1編及び第2編で習得した知識及び技能を活用している。	地域の創造や、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、ともに生きる社会を築いていくという観点から課題を見出し、その課題の解決に向けて論拠を明示して自分の考えを説明、論述している。	よりよい社会の実現を視野に入れつつ、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、ともに生きる社会を築くという観点から課題を見出し、諸課題を主体的に解決しようとしている。	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎 専門	
			1. 経済社会の変容					
			2. 市場の役割					
			3. 経済成長と国民福祉					
			4. 金融の役割					
			5. 財政の役割と租税					
6. 日本経済の課題								
3 学 期	11	8	第3編 現代日本における諸課題の探求	第1編と第2編の学習で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や政治・経済の展開の中で発生する諸事象を理解するための基本的視点を活用するとともに、第1編及び第2編で習得した知識及び技能を活用している。	地域の創造や、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、ともに生きる社会を築いていくという観点から課題を見出し、その課題の解決に向けて論拠を明示して自分の考えを説明、論述している。	よりよい社会の実現を視野に入れつつ、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、ともに生きる社会を築くという観点から課題を見出し、諸課題を主体的に解決しようとしている。	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎 専門	
			1. 財政健全化を考える					
			2. 持続可能な農業を考える					
3 学 期	12	6	3. 持続可能な福祉社会	第1編と第2編の学習で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や政治・経済の展開の中で発生する諸事象を理解するための基本的視点を活用するとともに、第1編及び第2編で習得した知識及び技能を活用している。	地域の創造や、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、ともに生きる社会を築いていくという観点から課題を見出し、その課題の解決に向けて論拠を明示して自分の考えを説明、論述している。	よりよい社会の実現を視野に入れつつ、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、ともに生きる社会を築くという観点から課題を見出し、諸課題を主体的に解決しようとしている。	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎 専門	
			4. の実現を考える					
計			70					

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	数学	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	数学Ⅱ	単位数	2
教科書	新編 数学Ⅱ (数研・数Ⅱ711)		
準教科書	なし		

育成を目指す 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付ける	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・例題などを用いて解法の解説を行い、それに関連する練習問題に取り組むことで学習の定着を図る。 ・授業内容は各自ノートに記載し、授業の最後に提出する。また、必要に応じてプリント提出を課す。 ・本時の内容や前時の内容の理解度を確認する小テストを実施する。 ・いくつかの単元ごとに内容の理解度を確認する単元テストを実施する。 		
学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は学習に集中して取り組み、小テストで確実に得点をとることができるようにする。 ・ノート、プリントなどの提出を課されたものは確実に提出する。 ・学習の障害になると判断される行動をとらない。 		
評価の方法	出席状況、提出物の状況、各種テストの得点、授業の取組姿勢などを総合的に判断し評価する。		

学期	月別	時間	単元	評価基準			資質能力
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
授 業 の 内 容	1	4	第4章 三角関数	<ul style="list-style-type: none"> ・角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解することができる。 ・三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解することができる。 ・三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、三角関数の加法定理から新たな性質を導くことができる。 ・三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	主体 自他 継続 思考 対応 基礎
		5	第1節 三角関数				
	6	第2節 加法定理					
	7	第2節 加法定理					
2	8	4	第5章 指数関数と対数関数	<ul style="list-style-type: none"> ・指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。 ・指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 ・簡単な対数の計算をすることができる。 ・対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指数と対数を相互に関連付けて考察することができる。 ・指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。 	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	主体 自他 継続 思考 対応 基礎
		9	第1節 指数関数				
	9	第2節 対数関数					
学 期	12	6	第6章 微分法と積分法	<ul style="list-style-type: none"> ・微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。 ・導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解することができる。 ・不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数とその導関数との関係について考察することができる。 ・関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 ・微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。 	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	主体 自他 継続 思考 対応 基礎
		11	第1節 微分係数と導関数				
		11	第2節 関数の値の変化				
計		62	第3節 積分法				

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	数学	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	数学A	単位数	2
教科書	改訂版 新編 数学A (数研・数A104-904)		
準教科書	なし		

育成を目指す 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付ける。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身に付ける。
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・例題などを用いて解法の解説を行い、それに関連する練習問題に取り組むことで学習の定着を図る。 ・授業内容は各自ノートに記載し、授業の最後に提出する。また、必要に応じてプリント提出を課す。 ・本時の内容や前時の内容の理解度を確認する小テストを実施する。 ・いくつかの単元ごとに内容の理解度を確認する単元テストを実施する。 		
学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は学習に集中して取り組み、小テストで確実に得点をとることができるようにする。 ・ノート、プリントなどの提出を課されたものは確実に提出する。 ・学習の障害になると判断される行動をとらない。 		
評価の方法	出席状況、提出物の状況、各種テストの得点、授業の取組姿勢などを総合的に判断し評価する。		

学期	月別	時間	単元	評価基準			資質能力
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	4 5 6 7	4 6 8 6	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	<ul style="list-style-type: none"> ・集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 ・独立な思考の意味を理解し、独立な思考の確率を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象の構造などにし着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	主体 自他 継続 思考 対応 基礎
			第2節 確率	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形に関する基本的な性質について理解することができる。 ・円に関する基本的な性質について理解することができる。 ・空間図形に関する基本的な性質について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察すること。 	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	
2 学期	10 11	5 11	第2章 図形の性質 第1節 平面図形	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形に関する基本的な性質について理解することができる。 ・円に関する基本的な性質について理解することができる。 ・空間図形に関する基本的な性質について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察すること。 	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	主体 自他 継続 思考 対応 基礎
			第2節 空間図形	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形に関する基本的な性質について理解することができる。 ・円に関する基本的な性質について理解することができる。 ・空間図形に関する基本的な性質について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察すること。 	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	
計		62					

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	保健体育	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	体育	単位数	2
教科書	なし		
準教科書	なし		

学習の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・単元（種目）毎の課題や自己能力に応じて運動技能を高め、基本的な動作やそれぞれの種目の特徴やルールを理解できるようにする。 ・各種運動における自己の役割を自覚して、その責任を果たし互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度が取れるようにする。 						
学習の進め方		<ul style="list-style-type: none"> ・単元毎に実技（授業）を進める上で自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることができるようになる。 						
学習の留意点		<ul style="list-style-type: none"> ・他との協調性を身に付けるとともに、運動に親しむ姿勢を身に付ける。 ・一斉授業またはグループ学習により、生徒の自主性、協調性、責任感などを育てる。 ・生徒への生涯を通じて自らの健康を適切に管理できる能力育てる体育授業展開を行う。 <p>【服装について】 指定ジャージ・指定上靴を着用すること。</p>						
評価の方法		「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」を総合的に判断し評価する。						
評価の観点	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に運動しているか。 ・協力して運動しているか。 ・健康や安全に注意しているか。 						
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を見付け出しているか。 ・課題の解決を目指して、運動の仕方を工夫しているか。 						
	技能	<ul style="list-style-type: none"> ・技能を高めているか。 ・体力を高めているか。 						
	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理的な行い方を身に付けているか。 ・運動の仕方や体力の高め方を理解しているか。 ・種目の特性、ルールや審判法を理解しているか。 						
授業の内容	学期	月別	時間	単元	学習内容	学習の観点	資質能力	
	1 学期	4	4	・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動 ・集団行動	<ul style="list-style-type: none"> ・手軽な運動やリズムのある運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わう。 ・授業に必要な列の増減などを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に必要な体力の重要性を理解し、楽しみながら運動に親しむ姿勢を身に付ける。 	主体 継続 判断	
		5	16	・バスケットボール	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の特性に応じた個人的技能や集団的スキルを身に付けながら、協調性やチームプレーを生かした攻防を展開してゲームを行い、その楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の技術と基本的なルールを理解し、競技の楽しさにつながる練習ができる。 	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎	
		6	16	・バレーボール		<ul style="list-style-type: none"> ・ルールや審判法を理解し、知識を身に付けることができる。 ・自己の能力に応じて技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 		
		8	6	・体育理論 ・新体力テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。 	主体 思考 判断 基礎	
		9	6					
	2 学期	10	12	・フットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の特性に応じた個人的技能や集団的スキルを身に付けながら、協調性やチームプレーを生かした攻防を展開してゲームを行い、その楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の技術と基本的なルールを理解し、競技の楽しさにつながる練習ができる。 	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応	
		11	11			<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の技術と基本的なルールを理解し、競技の楽しさにつながる練習ができる。 		
		12	8	・バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の特性に応じた個人的技能を身に付け、攻防を展開しながらラリーやゲームを行い、その楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に応じて技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してラリーやゲームができるようにする。 	主体 自他 継続 判断 対応 基礎	
		計		62				

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	工業	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	実習	単位数	3
教科書	なし		
準教科書	なし		

学習の目標		工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。					
学習の進め方		①毎時間の始めに、本時の作業内容・予想される事故を確認してから実習を開始する。 ②在籍人数に応じて班編制を組み、各班のテーマは前後期とも3時間×5週を基本とする。					
学習の留意点		①毎時間の出席を基本とする。実習課題は完成した物を提出する。 ②欠席した場合または実習時間内に作品や課題を提出できない場合は、各テーマ担当教員に対して補習対応などを依頼する。 ③作業服や安全防具などを必ず着用し、常に安全な作業を心掛ける。					
評価の方法		実習内容ごとに評価を行い、学年末に担当全員で協議したうえで最終評価を決定する。					
評価の観点	主体的に取り組む態度	実習内容に関心をもって担当教員の指導を聞き、安全に配慮した作業を行うことができるか。					
	思考・判断・表現	指導された内容を理解した上で、効率のよい作業方法を自ら考え判断し作業を行うことができる。					
	知識・技能	実習の方法を把握し、完成度の高い作品を製作することができる。 各種機械と加工方法について理解している。					
授業の内容	学期	月別	時間	単元	学習内容	学習の観点	資能力
	1学期	4	6	板金溶接Ⅰ	ゴミステーション 材料・組立	<ul style="list-style-type: none"> ・実習服や安全防具などを正しく着用する。 ・各実習項目で可能性のある危険を学習する。 ・各種機械や工具の名称を学習する。 ・実習内容の理論や仕組みを学習する。 ・機械の操作方法を学習する。 ・効率がよい後片付けや掃除を自ら行う。 ・効率よく製作がすすむよう、協力して作業をすすめることができる。 	主体 継続 思考 判断 基礎 専門
		5	9				
		6	6	板金溶接Ⅱ	ゴミステーション 組立・塗装		
	2学期	7	3	木材加工Ⅰ	踏み台チェアの製作		
		8	6				
		9	3				
	2学期	9	6	機械加工総合実習Ⅰ	卓上万力の部品の製作	<ul style="list-style-type: none"> ・実習服や安全防具などを正しく着用する。 ・各実習項目で可能性のある危険を学習する。 ・各種機械や工具の名称を学習する。 ・実習内容の理論や仕組みを学習する。 ・機械の操作方法を学習する。 ・効率がよい後片付けや掃除を自ら行う。 	主体 継続 思考 判断 基礎 専門
		10	6				
		11	6	機械加工総合実習Ⅱ	小型万力の製作		
2学期	12	9	木材加工Ⅱ	踏み台チェアの製作			
	1	3					
計		93					

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	工業	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	課題研究	単位数	3
教科書	なし		
準教科書	なし		

学習の目標		工業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育む。					
学習の進め方		<ul style="list-style-type: none"> ・最初のオリエンテーションでは、自らが取り組む課題の選択・計画立案を行います。 ・班ごとに作品の製作などの課題に取り組みます。 ・最終日に発表会を行い、研究の成果を確認します。 					
学習の留意点		<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の出席を基本とするので欠席をしないこと。 ・担当教員の指示に必ず従い、人の話をよく聞くこと。 ・安全防具などを必ず着用し、常に安全を意識してふざけず真剣に作業に取り組むこと。 ・課題に対して自ら考えて行動し、解決に向けて積極的に取り組むこと。 					
評価の方法		下記の評価の観点を基に各担当教員が評価を行い、最終的に全担当教員で協議して決定する。					
評価の観点	主体的に取り組む態度	工業的な事柄に関心を持ち、課題の設定、計画の立案および実習作業に対して自主的、主体的、意欲的かつ安全な態度で取り組んでいるか。					
	思考・判断・表現	工業的な事柄を分析的、総合的に判断し、効率のよい工程や目的通りの仕上がりを意識しながら作業を行っているか。					
	知識・技能	機械や工具の取扱いを理解し、これまでに習得してきた工業的な知識や技能を発揮して作業をすることができているか。					
授業の内容	1学期	4月	2	ガイダンス オリエンテーション	1年間の大まかな学習内容や留意点などの説明を受け、テーマおよび班編制について決定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や留意点などを理解することができる。 ・課題研究の目的を理解し、自分の取り組みたいテーマを決定することができる。 	主体基礎 コミ判断
		5月	6	自主課題	テーマ別に課題について取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに習得した知識や技能を活用しながら、作業計画や手順を踏まえて正しく作業を進めることができる。 ・問題が発生した場合、それを的確にとらえて解決することができる。 	主体思考 判断対応 専門
	2学期	10月	20	発表準備	プレゼンテーション資料の作成や発表練習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを活用しながら、人に伝わる資料を作成することができる。 ・発表時間を意識しながら、聞き取りやすい発表をすることができる。 	主体 他 コミ 思考 判断 対応
		11月	8				
		12月	1	4	課題研究発表会	全校生徒の前で研究成果のプレゼンテーションを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・成果の表現が適切にできる。 ・自己評価や相互評価が適切にできる。
	計	93					

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	工業	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	製図	単位数	2
教科書	製図（実教出版・工業707）		
準教科書	なし		

学習の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに習得した、製図に関するJIS（日本工業規格）及び機械製図や各種建築工事についての基礎的な知識と技術を土台とし、CADソフトを用いて図面を構想し製作する能力と態度を育てる。 						
学習の進め方		<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械製図における規格、種類、図示法、構造などについての基礎を学習する。 ・ 製図の基礎を理解し、製図法について段階的に復習しながら習得する。 ・ JWCADの基本操作を習得し、製図を製作する。 						
学習の留意点		<ul style="list-style-type: none"> ・ JWCADの各機能を理解して、使いこなすことができる。 ・ 作成する図面の記号や寸法などを理解した上で図面を作成する。 ・ 提出期限を厳守する。 						
評価の方法		<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席状況・製図の取組み状況（毎時間）と製図に対する理解、知識や技術が身に付いたか評価を行う。 						
評価の観点	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ CADソフトを用いた製図について関心や探求心を持ち、意欲的に追求する態度を身に付けようとしている。 						
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製図における基礎的・基本的な知識を活用して、適切に判断し、創意工夫してCADソフトを用いた製図法を身に付けようとしている。 						
	技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ J I S規格やCADソフトの機能と基本操作について理解し、それらを活用して作図することができる。 						
	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図面におけるCADソフトを用いた作図法や、手描き製図との違いについて理解することができる。 						
授業の内容	1学期	学期	月別	時間	単元	学習内容	学習の観点	資質能力 関心意欲 態度 思考 判断 表現 技能 知識 理解
		4	6	第4章 機械要素の製図	小型万力部品の作図	<ul style="list-style-type: none"> ・ 枠線及び表題欄を描くことができる。 ・ 製図の実技能力や基礎知識が理解できる。 ・ 実線、細線を描き分けることができる。 ・ 寸法記入を正しく描くことができる。 ・ 縮尺を理解して正しく作図することができる。 ・ 組立図と部品図の関係を正しく理解し、作図することができる。 		
		5	10					
		6	8					
		7	4	第4章 機械要素の製図	小型万力組立図の作図			
		8	4					
	9	4						
	2学期	10	4	レタリング法	文字デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本の書体を理解し、整った文字を書くことができる。 ・ 様々な書体の違いについて理解している。 ・ 製図のルールに従い、トレースすることができる ・ 図面を表現する際の初歩的な事項について理解している。 	関心意欲 態度 思考 判断 表現 技能 知識 理解	
		11	8		書体の理解			
		12	6	トレース技法	線の基本 製図用文字			
		1	4		簡単な図 簡単な製図			
		2	6		図面表現に関する初歩的事項			
		3	6					
		計	70					